

山雲水月

発行責任者 仁叟寺 住職 渡辺啓司

平成16年 住職年頭挨拶



謹賀新年

ざる 猿 (申) 年——日光東照宮、
しんぎゅうしゃ らんま ほ
神厩舎の欄間に彫られている

さんざる
三猿「見ざる、言わざる、聞かざる」はあまりにも有名であり、又処世の術として人々の広く知る所でもあります。ここで大事なことはこの言葉の最初に「他の悪きを」が付くという点であります。つまり「他人の悪きことをこと更に見ざる、言わざる、聞かざる」という意味であります。今、この厳しき時代にあって、これはこれとして逆に又心の中で「見る（真実を見極める）言う（己の意思表示を



うそ まこと
行う) 聞く（嘘か真をしっかりと聞く）」の姿勢を失ってはならないでしょう。国も人も全てに本物が問われる時代であります。



しんぎゅうしゃ さんざる
日光東照宮神厩舎「三猿」

平成16年 仁叟寺年間行事予定

- 1/1 年頭祈禱
- 1/3~1/4 年始挨拶
- 2/3 大節分会
- 2/15 涅槃会
- 3/14 大般若法要
- 3/18~3/24 春彼岸会
- 3月末 筆供養
- 4/8 花祭り
- 7/12~7/16 県外檀信徒棚経
- 7/23~7/24 子供禪の集い
- 8/13~8/16 盂蘭盆会
- 9/20~9/26 秋彼岸会
- 12/8 成道会
- 12/31 除夜会
- 毎週土・日曜日 書道教室
- 毎週水曜日 定期坐禅会
- 隔週水曜日 華道教室・梅花講稽古

平成16年年回法要一覧表

一周忌	平成十五年	二十三回忌	昭和五十七年
三回忌	平成十四年	二十七回忌	昭和五十三年
七回忌	平成十年	三十三回忌	昭和四十七年
十三回忌	平成四年	五十回忌	昭和三十年
十七回忌	昭和六十三年	百回忌	明治三十八年

※1 以上、各ご家庭に於いてご確認下さい。
 ※2 該当檀信徒各家にはハガキにて通知が届きます。

さいこうこもんだんか さいちゅうこうかいき
当寺最高顧問檀家、再中興開基

てらもとよしまさおう

しの

寺本欣正翁（サンコーグループ会長）を偲ぶ



きんいち

喪主挨拶を行う寺本欣一社長（サンコー72カントリークラブ18番ホール上で行われた社葬には、約4,000名もの焼香者が別れを惜しんだ）

去る9月10日（水）早朝、当寺最高顧問檀家並びに再中興開基であるサンコーグループ会長、寺本欣正翁が89歳で逝去されました。翁は生前、当寺の文殊堂、薬師堂、檀信徒会館「欣光閣」、坐禅堂、十三重石宝塔などなど数多くの堂宇の建立に尽力されました。（詳細は別紙配布の資料をご一読ください。）また、日本一の街路灯メーカーである賛光電器産業(株)、全72ホールを擁する名門サンコー72カ

ントリークラブはじめとするサンコーグループの礎を築いた立志伝中の人物でありました。

10月2日（木）午後1時30分より、寺本会長のサンコーグループ合同社葬が営まれました。故人の意向を汲み、サンコー72カントリークラブ18番ホールフェアウェイ上に祭壇を設営。当寺東堂、住職、副住職はじめ15名の僧侶による仏事が厳粛に執り行われました。喪主は長男の寺本欣一社長、葬儀委員長は中曽根康弘元内閣総理大臣がそれぞれ務められ、故人の遺徳と遺業を偲び、約4,000名もの方々が焼香に訪れました。

戒名は生前授与されていた「龍昇院殿欣光正悦大居士位」改めて故人の徳を偲び、御冥福を心からお祈りいたします。

寺本 欣正 翁
サンコーグループ会長
戒名 龍昇院殿欣光正悦大居士位
享年 89歳
平成15年9月10日寂

青山学院大学茶道部参禅合宿

去る8月下旬に3泊4日の日程で青山学院大学茶道部の合宿が当寺にて行われました。40年以上の歴史を持つ同部の合宿参加者は25名。本堂にて喫茶の御点前、坐禅堂にて参禅とお寺を活かした合宿を行いました。特に茶道は禅からその作法や「わび」「さび」といった精神が派生しております。お寺に泊まるのも坐禅を組むのも皆初めてでありましたが、無事圓成いたしましたことをここに報告します。ほか、23回目を迎えた子ども坐禅会ははじめ早稲田大学・東洋大学・



けいこ

本堂での茶道稽古風景

高崎経済大学・小野池学院などの団体が今年は参禅会を行いました。

寺史編纂室通信-7-

去る12月4日（木）に約1年振りに仁叟寺史編纂会議が行われました。寺史監修でもある外園早大教授も同席され、熱気溢れる会議でありました。会議ではこれまでの経緯の報告、具体的な項目などの決定、執筆依頼者の選定などに亘りました。

古文書の解読、什器台帳の作成といった地道で時間のかかる作業も漸く一段落いたしました。これからは、具体的な執筆編集作業に入っていくかと思われ



仁叟寺墓地（歴代住職墓地）の調査を行う小林、長谷川両委員

ます。まだまだ時間がかかる事業ですが、仁叟寺の歴史を後世にきっちりと伝えていくことは大切かつ重要なことでもあります。外園教授はじめ委員の皆様にはこれから更に御尽力賜るかと思えます。いい寺史の製作のため、宜しく御願ひ申し上げます。



「仁叟寺のモクの木」
町指定天然記念物

仁叟寺探索-5-

今回の探索では、仁叟寺のモクの木を取り上げます。

モクとは吉井の方言で「棕」と言った方が分かり易いかも知れません。このモクの木は、吉井町の天然記念物にも指定されております。当寺の本堂裏の駐車場、東隅に

梢を伸ばして雄大な樹形を見せております。根周り7.0m、目通り1.5m、高さ29.0m、地上7.0mのところ幹が二つに分かれ、灰白色の木肌が荒くれて下の方にツタが巻き付き古蒼を帯びております。カヤの木、モクの木といった巨木と、しばし自然との対話なんて如何でしょう

はくさんみょうりだいごんげん

白山妙理大権現改修終了

当寺入口に祀られていた「白山妙理大権現」様と「金毘羅大権現」様の祠堂が一新されました。白山様は寺域を守護する龍神です。また曹洞宗の開祖・道元禅師が留学先の宋から帰朝される前夜、『碧巖録』の筆写を手伝い、一夜の内に、この権現の霊力をもって全てを書き写した、とされています。

寺域の守護は元より、水を司る龍神信仰と相成って白山様は信仰されておりました。是非、お参りください。



↑左 白山大権現 右 金毘羅大権現

総代人新年挨拶

明けまして、 おめでとうございます



檀信徒の皆様には、ご家族お揃いで新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。

お蔭様で除夜会・二年詣りや節分会も年を追うごとに殷賑を極め、仁叟寺山内行事の大切な一環として定着して参りました。

また昨年9月28日には龍道副住職がめでたく御結婚され、仁叟寺の立派な御法嗣が誕生されましたことは、誠に同慶の至りに存じます。

しかしながら、仁叟寺の最高顧問檀家でもあれば再中興開基として絶大な御尽力を頂いた寺本欣正会長が9月10日早朝、卒然として不帰の客とされましたことは、如何に人生が諸行無常とはいえ痛恨の極まりであります。今はただ亡き会長の偉大なる遺徳を偲ぶと共に、仏道に対する深く篤い思いに応えるべく檀信徒一同一致協力、いよいよ法灯の護持発展に努めなければならないと思います。

それにしても、私達を取り巻く内外の政治・経済・社会情勢などなど、余りにも深刻な問題が山積し、しかも混迷と争乱に明け暮れ、慈悲・平等・平和を説く仏道とは程遠い修羅の世界を思わせます。

こうした利己にのみ走る渴愛や心を汚す煩惱の渦巻く無明の世俗にあっては、時に道元禅師の教えに従い、端坐参禅、全てのしがらみから離れて人間本来の生き方あり方を見直すことも大切なことだと思われまます。

ともあれ、私達檀信徒一同、今年も心を合わせ、明るく平安で思いやりのある社会の実現に向かって精進していきたいものです。

平成16年

元旦 仁叟寺
総代人一同
(文責、総代
長 金子 明)



仁叟寺総代人一同

金子 明	向井周治	三木利次
森 祐夫	篠崎和男	関口益雄
春山 繁	井上正俊	矢島正義
新井徳衛		(順不同、敬称略)

とくべつきこう

さんぜんしゃ

よりいまち

かみおかけんじし

特別寄稿

(参禅者

寄居町

神岡健司氏)

きほう

既報であります。当寺の坐禅堂で毎週水曜日午後7時から行っている定例坐禅会も早いもので丸2年の月日が経とうとしております。今回は、その坐禅会に第1回目から参加修行している神岡健司氏に坐禅についての文章を書いて頂きました。以下、御紹介いたします。



当寺定期坐禅会の様子

「静と動、相反するものが一体となることを感じます。毎週水曜日の夜に45分くらい座り続けて9ヶ月(※寄稿があったのは一昨年の12月8日)経ちます。いつも仕事帰りに立ち寄り、疲れている時や都合の悪い日も幾度かあって座れなかった時もあったけれども龍道副住職の温かい御指導のお陰でここまでやってこれました。この場を借りて感謝申し上げます。なぜ坐禅をするのかと聞かれますが、実際のところ自分でも良く分かりません。というより、坐ることの意味をよく考えたことがない

からです。何故、考えないかといいますと、回答が出ないからです。普通は何かを実践するとき、目標や目安を立てますが、坐禅に関してはそういったものがないからです。逆に言えば答えが出ない、だからこそそこに意味があるような気がいたします。答えや目標に捕われない何も制約されない自分がそこにいるのです。

平成14年12月8日 成道会

記」

埼玉県は寄居町より毎週坐禅会に参加している神岡さんの禅についての想いです。現在の坐禅会は榛名高校野球部はじめ常時50名ほどの参加がありますがこの文を書いて頂いた1年前

行雲流水 (編集後記)

編集人 副住職 渡辺龍道

明けましておめでとうございます。本年も宜しく御願い致します。

昨年の仁叟寺報「山雲水月」秋号は当方の都合により休ませていただきました。この場を借りてお詫び申し上げます。

また今回の寺報では初めて寄稿文を掲載させて頂きました。もし、読者の方で載せて頂きたいこと、紙面編集などについて

のアイデアなどございましたら、遠慮なく副住職まで御一報ください。

今年は雪も降らず例年より温かく過ごし易い冬になりました。しかし、シーズをはじめインフルエンザなどの感冒は年々増加傾向だという話もあります。皆様におかれましても、どうぞお身体ご自愛のほど。

